氏　名（本 籍）	片　上　絵梨子（大阪府）
学 位 の 種 類	博　　士（スポーツ科学）
学 位 記 番 号	甲　第　２５　号
学 位 授 与 日	平成 29（2017）年 3 月 17 日
学位授与の要件	大阪体育大学大学院学位規程第４条第１項該当
研　究　科　名	スポーツ科学研究科（博士後期課程）スポーツ科学専攻
論　文　題　目	Influence of received social support on athletes' self-confidence and psychological well-being
審　査　委　員	主　査　　教　授　土 屋　裕 睦
	副　査　　教　授　荒 木　雅 信
	教　授　前 島　悦 子

論文内容の要旨

周囲の他者との良好な対人関係は，個人の身体的・心理的健康の維持・促進に関連する重要な要因の一つである．他者から提供される有形・無形の援助行動は，総称してソーシャルサポートと呼ばれ，個人の well-being に寄与することが示されてきた．アスリートにとってのソーシャルサポートは，励ましや慰め（emotional support），評価や承認（esteem support），助言や情報(informational support)，金銭や物品（tangible support）を受け取ることであると考えられている．これらのサポートが指導者，チームメイト，友人，家族などアスリートにとっての重要な他者により提供されることが，アスリートの well-being につながると報告されている．また，well-being のみならず，自信など競技に関連する側面にもソーシャルサポートが影響することが示されている．しかしながら，実際にソーシャルサポートを受け取ることがアスリートの心理的側面に及ぼす影響については明らかにされていない．そこで本研究では，アスリートが受け取るソーシャルサポートについて実態調査を行い，ソーシャルサポートを受け取るこ

とがアスリートの心理的側面に及ぼす影響について，サポート有効性に影響し得る要因とともに検討することを目的とした．

研究 1 では，大学生アスリートを対象に，4 週間のスポーツ場面におけるソーシャルサポートについての調査研究を行った．日誌法を用いて，アスリートのスポーツ場面における他者との対話記録よりデータを収集し，アスリートが受け取ったソーシャルサポートとその心理的反応について探索的に内容分析を行なった．その結果，先行研究において示された 4 種類のソーシャルサポートを受け取っていることが確認された．また，心理的反応については，well-being に関連する反応のみならず，競技パフォーマンス関連の反応も確認された．このことから，ソーシャルサポートを受け取ることは，アスリートの競技パフォーマンスにも影響し得ることが考えられる．

研究 2 では，アスリートのソーシャルサポートの定量的な検討を行うため，尺度を作成することを目的とした．アスリートのソーシャルサポート受領頻度を測定する尺度，the Athlete Received Support Questionnaire の日本語版（the ARSQ-J）を作成し，その信頼性と妥当性を検討した．the ARSQ-J は，スポーツの文脈におけるソーシャルサポート 4 因子（emotional support, esteem support, informational support, tangible support）の測定が可能な尺度である．分析の結果，the ARSQ-J は，原版 the ARSQ 同様に 4 因子構造を有するアスリートのサポート受領が測定可能な尺度であることが示された．また，尺度及び因子の内的整合性や，関連する尺度との相関が示されたことから，一定の信頼性及び妥当性を有する尺度であることが確認された．

研究 3 では，the ARSQ-J を用いて，ソーシャルサポートと well-being の関連を検討した．ソーシャルサポートと well-being の相関分析の結果，サポートの種類ごとに特徴的な関連を示したことから，ソーシャルサポートは種類によって異なる機能を持つと考えられる．また，ソーシャルサポートを独立変数，well-being を従属変数として回帰分析を行った結果，ソーシャルサポートは well-being の向上に寄与することが確認された．このことから，ソーシャルサポートはアスリートの well-being に影響し得る要因であることが示された．

先行研究に一致して，ソーシャルサポートと well-being との関連が確認された．
さらにアスリートの競技パフォーマンス要因との関連を検討することにより，アスリートにとってのソーシャルサポートの影響を解明することが可能になると思われる．また，スポーツ場面におけるソーシャルサポートの有効性は，その提供者や提供文脈（時期）などの要因の影響を受けることが指摘されている．そこで，研究 4 では，提供者の影響，研究 5 では提供文脈（時期）の要因を考慮して，ソーシャルサポートと競技における自信を検討することを目的とした．

研究 4 では，ソーシャルサポートと競技における自信との関連について，サポート提供者（指導者/チームメイト）による差異を検討した．その結果，esteem support は提供者の別なく競技における自信に正の影響を与えることが示された．また，tangible support は，チームメイトから提供された場合には正の影響，指導者から提供された場合には負の影響が確認された．このことから，提供者によりその有効性が異なるサポートの種類があると考えられる．

研究 5 では，ソーシャルサポートと競技における自信との関係について，サポート提供文脈（通常期/試合前期）によるソーシャルサポートの効果の差異を検討した．その結果，試合前期には informational support 及び tangible support がアスリートの競技における自信に影響を及ぼすことが示されたが，提供者およびサポート提供文脈によりその関連は異なることが示された．試合前の informational support は，

指導者から提供された場合には正の影響，チームメイトから提供された場合には負の影響が示された．一方，tangible support はチームメイトから提供された場合には正の影響，指導者から提供された場合には負の影響を及ぼすことが示された．

本研究の結果より，ソーシャルサポートは well-being のみならず競技における自信にも影響し得る要因であることが確認されたものの，その関係はサポートの種類，提供者，文脈（時期）によって異なることが示唆された．

審査結果の要旨

（論文審査）

本研究は、アスリートが受け取るソーシャルサポート(SS)について調査を行い、SS を受け取ることがアスリートの心理的側面に及ぼす影響について検討することを目的とした。研究 1 では、大学生アスリート（N＝11）を対象に、日誌法を用いて SS とその心理的反応について内容分析を行なった。その結果，先行研究において示された 4 種類の SS を受け取っていることを確認した。そこで研究 2 では，アスリートの SS 受領頻度を測定する尺度である The Athlete Received Support Questionnaire の日本語版（ARSQ-J）を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。その結果 ARSQ-J は原版と同様 4 因子（emotional support, esteem support, informational support, tangible support）構造であることが確認された。研究 3 では ARSQ-J を用いて、大学生アスリート 239 名（男子 126 名、女子 113 名）を対象に SS と心理的 well-being の関連を検討した。相関分析の結果，SS はアスリートの well-being に影響し得る要因であることが示された。さらに詳細な検討を行うため、研究 4 では 231 名（男子 150 名、女子 79 名、未記入 2 名）を対象に、SS と競技における自信との関連について、サポート提供者（指導者/チームメイト）による差異を検討した。その結果、esteem support は提供者の別なく競技における自信に正の影響を与えることが示された一方、tangible support は、チームメイトから提供された場合には正の影響、指導者から提供された場合には負の影響が確認された。研究 5 では大学生アスリート 84 名を対象に、サポート提供の時期の違いによる SS の効果の差異を検討した。その結果、試合前の informational support は指導者から提供された場合には正の影響を及ぼすが、チームメイトから提供された場合には負の影響を及ぼすことが示された。一方、tangible support はチームメイトから提供された場合には正の影響、指導者から提供された場合には負の影響を及ぼすことが示された。

論文審査の結果、SS はアスリートの well-being のみならず競技における自信にも影響し得る要因であることが確認され、さらにその関係はサポートの種類、提供者、文脈（時期）によって異なることを示した点が高く評価された。また、研究の産物としてアスリートの SS 受領頻度を測定する尺度である The Athlete Received Support Questionnaire の日本語版を作成したことも、今後この領域における研究を促進する成果として評価された。

（最終試験）

提出論文をもとに、関連する事柄及び発表会での質疑に対する応答の内容を中心に、口頭試問を行った。具体的には、①SS の日本語表記ならびに用語の定義、②性差の検討、について質問したところ、的確な回答があり、提出された論文においても適切に記載されていることを確認した。また関連する事項についても十分な回答がなされた。以上から、大学院で学んだ知識が博士の学位授与の基準を満たしていると判断されたので、合格と判定した。